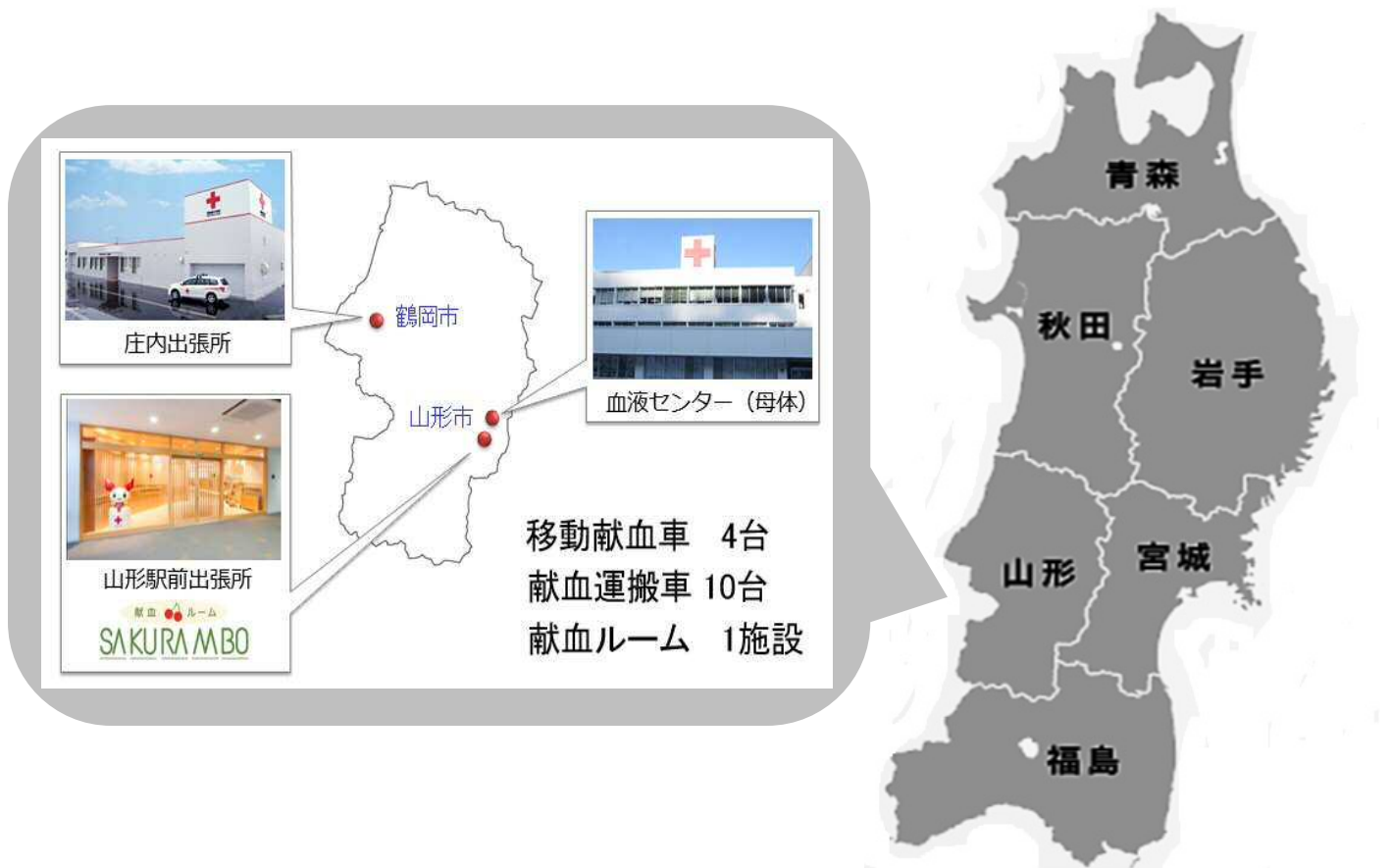


平成30年度 血液事業の実施概要

平成30年12月31日現在
山形県赤十字血液センター

1 事業体制

血液事業は平成24年度から広域事業運営体制に移行し、全国7カ所にブロック血液センターが設置され、山形県赤十字血液センターは東北ブロック血液センターに所属して、献血推進・採血・(血液製剤の)供給に特化した業務を行っている。



日本赤十字社東北ブロック血液センター 宮城県仙台市泉区明通2丁目6-1	検査、血液製剤の製造・需給管理業務
山形県赤十字血液センター	
母体(山形県赤十字血液センター) 山形市松波1丁目18-10	移動採血車による採血業務 血液製剤の供給業務
山形駅前出張所(献血ルームSAKURAMBO) 山形市香澄町2丁目2-36	採血業務
庄内出張所 鶴岡市美咲町26-12	移動採血車による採血業務 血液製剤の供給業務

2 血液製剤の供給実績(平成30年4月～平成30年12月)

当センターでは医療機関に安定的に血液製剤を供給するため、3日分の在庫を保有し、東北ブロック血液センターから1日に3回定時搬入をする体制をとっている。

製剤区分	本数 (本)	単位換算数 (単位)	構成比	平成29年度同期実績		
				本数 (本)	単位換算数 (単位)	構成比
全血製剤	-	-	-	-	-	-
成分製剤	28,183	85,234	-	29,487	92,462	-
赤血球製剤	1単位	697	45.1%	571	571	42.1%
	2単位	18,864		19,198	38,396	
	計	19,561		19,769	38,967	
血漿製剤	200mL由来	71	12.5%	12	12	13.8%
	400mL由来	4,585		5,128	10,256	
	成分由来	352		618	2,472	
	計	5,008		5,758	12,740	
血小板製剤	5単位	81	42.4%	101	505	44.1%
	10単位	3,476		3,651	36,510	
	15単位	29		84	1,260	
	20単位	28		124	2,480	
	計	3,614		3,960	40,755	

《参考》東北ブロック管内各県血液センター別供給数

(単位)

	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合計
青森県	-	59,071	14,471	76,770	150,312
岩手県	-	41,808	13,025	60,060	114,893
宮城県	-	73,460	28,540	113,022	215,022
秋田県	-	36,862	8,381	60,060	105,303
山形県	-	38,425	10,649	36,160	85,234
福島県	-	80,605	25,173	85,300	191,078

3 献血実績

医療機関に対する血液製剤の安定供給と血漿分画製剤の国内自給を目標とした原料血漿を確保するため、県並びに市町村との連携を図りながら、各事業所・学校及び献血協力団体等のご理解のもと、多くの県民の皆様に献血にご協力いただいた。

(1) 献血者数(平成30年4月～平成30年12月)

献血者総数 **28,701** 人 (前年度同期間 29,157 人、前年度対比 98.4 %)

内訳	成分献血者	7,221 人	(前年度同期間 7,613 人、前年度対比 94.9 %)
	400mL献血者	20,682 人	(前年度同期間 20,639 人、前年度対比 100.2 %)
	200mL献血者	798 人	(前年度同期間 905 人、前年度対比 88.2 %)

(2) 場所別献血者数(平成30年4月～平成30年12月)

	成分献血				全血献血		合計	
	血小板献血			血漿献血	計	400mL献血		200mL献血
	分割	分割外	小計					
献血ルーム	1,377	1,944	3,321	3,900	7,221	3,117	335	10,673
移動採血車	-	-	-	-	-	17,565	463	18,028
計	3,321			3,900	7,221	20,682	798	28,701
【平成29年度同期実績】								
献血ルーム	939	2,731	3,670	3,943	7,613	3,195	270	11,078
移動採血車	-	-	-	-	-	17,444	635	18,079
計	3,670			3,943	7,613	20,639	905	29,157

《参考》東北ブロック管内各県血液センター別献血者数

	成分献血		全血献血				献血者数 合計	稼働数		1稼働あたり	
	固定施設		固定施設		移動採血車(オープン採血含む)			固定 施設	移動 採血	固定 施設	移動 採血
	血小板	血漿	400mL献血	200mL献血	400mL献血	200mL献血					
青森県	5,124	3,179	5,591	475	18,242	1,125	33,736	548	464	26.2	41.7
岩手県	4,362	3,893	3,380	936	18,834	232	31,637	275	465	45.7	40.8
宮城県	5,366	15,242	17,919	1,155	25,331	967	65,980	549	550	72.3	46.9
秋田県	5,003	2,590	4,113	106	14,023	763	26,598	430	386	27.5	38.3
山形県	3,321	3,900	3,117	335	17,565	463	28,701	275	421	38.8	42.8
福島県	8,919	7,680	8,052	361	31,319	1,544	57,875	743	686	33.7	47.9

4 原料血漿の確保実績(平成30年4月～平成30年10月)

血漿分画製剤の原料となる血漿は、安全性の確保並びに倫理的な見地から、その全てを国内の献血でまかなう方針が国から示されている。国内自給率100%達成に向けて、割り当てられた目標量の確保に努めた。

原料血漿確保目標	確保実績	実績/目標量
41,816 L	39,718 L	95.0 %

※上記の数字は広域事業運営体制となったため、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島6県分の合算で、10月末時点における実績の速報値。

5 独自の移動採血バスの配車実績

多数の人出が見込まれるショッピングセンターの協力により、『定点献血』として月毎に決められた日に移動採血バスを配車したほか、陸上自衛隊第6師団のご理解を得て、陸上自衛隊神町駐屯地へバスを配車し、400mL献血を中心に献血協力を依頼した。

会場	実施日	回数	献血者 総数	1台当たり 献血者数	1台当たり 400ml数	
定点 献血	イオン山形北店	年6回の土、日曜日	5回	212人	42.4人	40.6人
	イオンモール山形南	偶数月第1、2日曜日	4回	126人	31.5人	30.5人
	イオンモール天童	奇数月第3日曜日	5回	247人	49.4人	46.4人
	イオン東根店	奇数月第1土曜日	4回	151人	37.7人	36.2人
	こびあ鶴岡店	毎月第2土曜日	9回	503人	55.8人	53.7人
	イオンモール三川	毎月第4土曜日	11回	631人	57.3人	54.0人
陸上自衛隊神町駐屯地		4回	198人	49.5人	49.2人	

6 キャンペーン等による献血の推進

献血者が減少傾向にある時期にあわせて、各種キャンペーンを企画し、効果的な広報活動の推進を図った。

実施月	名称	備考
6月	世界献血者デー(6月14日) ※ ABO式血液型を発見し、ノーベル生理学・医学賞を受賞したカール・ラントシュタイナー氏の誕生日	全国キャンペーン
7月	愛の血液助け合い運動	全国キャンペーン
8月	学生サマーキャンペーン	山形県内学生キャンペーン
12月	全国学生クリスマス献血キャンペーン2018	山形県内学生キャンペーン

(1) 世界献血者デー

実施日	実施会場	献血状況			
		成分献血	400mL献血	200mL献血	計
6月14日(木)	(株)山形企業、糠野目生涯学習館	-	57人	3人	60人
	献血ルームSAKURAMBO	21人	11人	-	32人

(2) 愛の血液助け合い運動

実施期間(日)	実施会場	内容
7月25日(水)	山形県立山形東高等学校	来場者及び協力者に、献血に関するメッセージの記入及び写真撮影を依頼し、ホームページ上で公開することで、献血及び当運動のPRを図った。 (400mL献血:11人 200mL献血:1人 計12人)

(3) 学生サマーキャンペーン (5回実施)

実施日	実施会場	献血状況		
		400mL献血	200mL献血	計
8月5日(日)	マックスバリュ新庄店	40人	7人	47人
8月14日(火)	イオン米沢店 (2台配車)	101人	6人	107人
8月15日(水)	ヨークベニマルららパーク天童店	52人	2人	54人
8月19日(日)	イオン山形北店	68人	3人	71人
8月25日(土)	イオンモール三川	60人	3人	63人
合計		321人	21人	342人

(4) 全国学生クリスマス献血キャンペーン (4回実施)

実施日	実施会場	献血状況		
		400mL献血	200mL献血	計
12月2日(日)	イオン米沢店 (2台配車)	90人	3人	93人
12月9日(日)	マックスバリュ新庄店	55人	3人	58人
12月15日(土)	イオンモール三川	64人	1人	65人
12月23日(日)	イオン山形北店	44人	3人	47人
合計		253人	10人	263人

7 献血の普及啓発事業

(1) ライオンズクラブ国際協会332-E地区献血推進研究会

実施日	実施会場	状況
10月9日(火)	ホテルメトロポリタン山形(山形市)	・献血推進活動事例報告 ・ライオンズクラブ目標「献血1万人運動」に向けての協議ほか

県内各ライオンズクラブでは、「献血1万人運動」を活動目標の1つに掲げ、次のとおり献血推進活動に積極的に協力いただいている。

- ア イオン等各定点献血会場での勧誘及び記念品進呈
- イ 街頭献血会場での勧誘及び記念品進呈
- ウ 高等学校及び大学等での記念品進呈
- エ 企業等での記念品進呈
- オ 各ライオンズクラブ主催での献血実施
- カ 献血ルームでの協力

(2) 献血セミナー

将来の輸血医療を支える小・中・高校生等に、血液や献血に対する正しい知識を学んでもらうことを目的に、献血セミナーを実施した。また、同年代から若年層献血者育成を図るため、学生ボランティアによる献血セミナーにも取り組んでいる。

	小学校	中学校	高等学校	大学	その他	計
平成30年度	5回	0回	20回	13回	21回	59回

(3) 献血推進・普及啓発キャンペーン・イベント

ア 献血ルームSAKURAMBO主催

Twin 献血	平成30年8月5日(日)～8月31日(金)
献血ルーム SAKURAMBOの周知を図るとともに、減少傾向である若年層(10代～30代)の献血者確保のため、献血協力依頼を求めた。初回の献血者は不安が大きいと考えられるため、2名以上での協力依頼を行い、献血ルームへ来所しやすいきっかけづくりを行った。また、期間中、成分献血、全血献血にご協力いただいた10代～30代の献血者へ記念品をプレゼントした。	
献血ルームクールシェアキャンペーン	平成30年7月1日(日)～9月30日(日)
夏の暑い期間中、献血ルームを涼める場所としてPRし、献血者に快適な場所を提供する「クールシェア」を展開。また、期間中に献血協力いただいた方へ記念品として「冷やしシャンプー」をプレゼントした。	
モンテディオ山形応援キャンペーン「モンテ応援デー」	平成30年5月1日(火)～30年11月14日(水)の間の毎週火曜日・水曜日
毎週火曜日と水曜日をモンテディオ山形応援デーとし、特に使用期限の短い血小板成分献血を週末でも安定的に医療機関に届けられるよう、協力を求めた。期間中の毎週火曜・水曜に献血した方へ応募券を配布し、8月と12月の2回抽選を行う。抽選実施後に来所頂いた際、献血カードにより当選者を確認し、記念品をお渡しする。	

献血ありがとうカード	平成29年9月1日～30年9月30日(日)
学生の献血者確保と、継続的な献血協力を目的に、献血初回の学生に「献血ありがとうカード」を配布し、次回献血協力時に記念品とカードを交換できる「献血ありがとうキャンペーン」を展開した。現在は「献血ありがとうカード」の配布を終了している。	

イ 血液センター(母体)主催

10代限定！卒業・進級キャンペーン	平成30年3月1日(木)～4月30日(月)
10代の献血者確保対策を目的として、献血バスにおける街頭献血及び献血ルームSAKURAMBOにおいて、献血に協力いただいた10代献血者に対して、USBメモリーをプレゼントした。	
JR山形駅における献血啓発活動	平成30年11月30日(金)
高校生をはじめとする若年層に対する献血の普及啓発を図るべく、通学時間帯をねらいJR山形駅構内にて献血啓発資材(ポケットティッシュ1,500部)を配布した。	

ウ 地域イベントへの参加

スプリングフェスティバル「はたらくクルマ大集合」	平成30年5月5日(土)
主に若年層に対する献血の普及啓発を目的に、商工会議所主催のスプリングフェスティバル「はたらくクルマ大集合」に献血バスを配車した。来場者には献血バス内の見学だけでなく、実際に献血にもご協力をいただき、献血の理解促進を図った。	
はたらくクルマinイオンモール三川	平成30年6月10日(日)
若年層に対する献血普及啓発を目的に、イオンモール三川にて開催された「はたらくクルマ展」にて献血運搬車を展示。また、子ども用災害救護服・看護実習衣の試着体験を行い、献血運搬車見学や写真撮影を行った。	
日本一のさくらんぼまつり	平成30年6月23日(土)
若年層をはじめ、幅広い年齢層に対する献血普及啓発を目的に、七日町商店街歩行者天国で開催された「日本一のさくらんぼまつり」において赤十字なりきり体験を実施。子ども用災害救護服・看護実習衣を着て採血体験や献血運搬車見学や写真撮影を行った。	
YBCラジオフェスタ2018	平成30年10月21日(日)
山形メディアタワーにて開催された「YBCラジオフェスタ2018」において、若年層に対する献血普及啓発を目的に、支部と合同で赤十字PRブースを出展。献血バスの展示したほか、子ども用災害救護服・看護実習衣の試着体験、模擬採血体験を実施し、来場者に対する献血の理解促進を図った。	
天職童場	平成30年11月23日(金)
天童市総合福祉センターにて開催された「天職童場」に山形県支部と共に参加し、小学生及び保護者を対象に、模擬献血体験等を実施。問診票の記入や血圧測定、ベッドでの採血までの流れを献血バスの中で体験していただくことで、赤十字の業務及び献血の理解に努めた。	

エ 学校行事への参加

山形県立保健医療大学 学園祭	平成30年6月16日(土)
学生への献血普及啓発を目的に、山形県立保健医療大学での大学祭において献血バスの配車及び献血普及啓発ブースの設置を行った。会場にて学生ボランティアによる献血啓発の呼びかけを実施したことで、学生から多数の献血協力をいただいた。	
三友堂看護専門学校 学校祭	平成30年10月13日(土)
学生への献血普及啓発を目的に、三友堂看護専門学校での学校祭において献血普及啓発ブースを設置した。来場者から献血に対する思いをメッセージシートに記入していただき、会場内に掲示し、学内での献血意識向上を図った。	

8 若年層献血者の確保対策

学生ボランティアの組織拡充のために、大学・専門学校の学生を対象に献血協力を呼び掛けるボランティアを募り、サークル組織を拡充することで、同世代の若年層献血者への広報活動等を推進した。

学生ボランティアサークル

山形大学本部、山形大学農学部、山形大学工学部、県立保健医療大学、東北公益文科大学、三友堂看護専門学校、 県立米沢女子短期大学、県立米沢栄養大学、酒田市立酒田看護専門学校	計 9団体
---	-------

さらに、献血ルームSAKURAMBOでは毎週土曜日に高校生青少年赤十字メンバー(2～3名)に、献血者の案内・接遇等の活動に協力いただいている。県内7校参加。

9 調査、研究事業の推進

輸血医療の質的向上を目指した調査研究事業を行い、適正かつ安全な輸血療法の向上を目指し、県と合同で山形県の血液使用量の90%以上を占める医療機関とともに県合同輸血療法委員会を開催した。

(1) 研究事業の実施

厚生労働省の平成30年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業に、山形県合同輸血療法委員会として応募の内容が採択された。

【テーマ】「地域連携を基盤とした廃棄血削減及び輸血教育への取り組み」

- (1) 地域連携を基盤とした廃棄血削減に関する取り組み
- (2) 地域連携を基盤とした輸血教育への取り組み

(2) 委員会の開催と学会等への参加

実施日	名 称	場 所	摘 要
5月22日(火)	第15回山形県合同輸血療法委員会	霞城セントラル (山形市)	出席者総数 40名
5月 24日(木) ～26日(土)	第66回日本輸血・細胞治療学会総会	栃木県総合文化センター (宇都宮市)	血液センター職員 参加 2名
9月 8日(土)	第113回日本輸血・細胞治療学会 東北支部例会	東北大学医学部星陵会館2階 (星陵オーデトリウム) (仙台市)	血液センター職員 参加 9名
10月 2日(火) ～10月4日(木)	第42回日本血液事業学会総会	幕張メッセ国際会議場 (千葉市)	血液センター職員 発表 5名
12月1日(土)	第16回山形県合同輸血療法委員会	霞城セントラル (山形市)	出席者総数 42名
12月1日(土)	第8回山形輸血療法セミナー	霞城セントラル (山形市)	出席者総数 73名